



蘭学者。大洲城下(現、大洲市)出身。本名は周三。5歳で百人一首を全部覚えるなど、幼い時から才能を発揮していた諸淵は、安政2(1855)年、宇和郡卯之町(現、西予市)で叔父の二宮敬作から蘭医学を学び、同年、宇和島藩の医師となった敬作とともに宇和島に移り、村田蔵六から蘭学を学んだ。また、安政5(1858)年、電信機械を長崎から持ち帰り、大洲の肱川の河原で「三瀬諸淵の針金だより」と称される電信実験に、わが国で初めて成功した。

その後、長崎に赴き、安政6(1859)年、再来日していたシーボルトの弟子となり、ともに江戸(現、東京都)に出てからは通訳を務め、帰郷後の慶応2(1866)年にはシーボルトの孫の高子と結婚した。

明治時代になると、大阪府に医学校や病院の設立を進めるなど、わが国の医学界の進歩に力を尽くしたが、明治10(1877)年、病のために39歳の若さで逝去した。

略歴

- | | |
|-------------------|---|
| 天保10(1839)年10月1日 | 大洲城下の中町で、大洲藩の塩問屋を営む麓屋半兵衛と二宮敬作の姉・倉子との間に生まれる(7月1日との説もある)。 |
| 安政2(1855)年1月 | 叔父・二宮敬作に蘭医学を学ぶため、宇和郡卯之町へ赴く。 |
| | その後、宇和島で村田蔵六にも入門 |
| 安政3(1856)年3月 | 二宮敬作や楠本イネらと長崎に赴く。 |
| 安政5(1858)年8月 | 帰郷し、大洲の肱川の河原で電信の実験に成功 |
| 安政6(1859)年 | 再度長崎に赴く。再来日したシーボルトに入門する。 |
| 文久元(1861)年3月 | シーボルトが幕府外交顧問となって江戸に出るのにもとない、一緒に江戸へ出る。 |
| 10月 | 外交機密を漏らしたという疑いがかけられ、江戸大洲藩邸に幽閉される。 |
| 文久2(1862)年4月16日 | 佃島の牢へ投獄される。 |
| 元治元(1864)年8月 | 出獄。大洲へ帰郷。その後、大洲藩に三人扶持で召し抱えられる。 |
| 11月 | 宇和島藩主・伊達宗城の招きにより、宇和島藩に仕える。 |
| 慶応2(1866)年3月 | 楠本イネの娘(シーボルトの孫)・高子と結婚 |
| 6月 | 宇和島藩が英蘭学稽古所を開設。英学・蘭学の教授にあたる。 |
| 明治元(1868)年 | 明治新政府の命により、大阪で大阪医学校兼病院設立に携わる。 |
| 明治2(1869)年7月 | 浪華仮病院兼医学校が移転・改称して、大阪医学校兼病院が開設される。 |
| 11月5日 | 勤務していた大阪医学校の病院で、不平士族の襲撃に遭い入院していた大村益次郎(村田蔵六)が逝去 |
| 明治4(1871)年8月9日 | 文部省中教授となり、東京医学校の設立に携わる。 |
| 明治9(1876)年 | 大阪病院一等医に任じられる。 |
| 明治10(1877)年10月19日 | 胃腸カタルのため39歳で永眠。墓所は大洲市西大洲の大禅寺 |

(写真提供：大洲市立博物館)

〈関連図書〉

- ・長井音次郎『愛媛県先哲偉人叢書 第2巻 二宮敬作・三瀬諸淵』愛媛県教育会 1934年
- ・山口常助『愛媛の先覚者2 三瀬周三』愛媛県教育委員会 1965年
- ・影山昇『伊予の蘭学』青葉図書 1975年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』愛媛県 1989年
- ・大洲市誌編纂会『大洲市誌』大洲市誌編纂会 1996年
- ・『平成9年企画展 伊予の蘭学』愛媛県歴史文化博物館 1997年
- ・『発掘えひめの人-近代を拓いた101人-』愛媛新聞社 2002年
- ・『特別展図録 三瀬諸淵 シーボルト最後の門人』愛媛県歴史文化博物館 2013年

〈ゆかりのある場所〉…(P268, 20)

〈関連施設〉…大洲市立博物館

〒795-0054 愛媛県大洲市中村618-1 TEL: 0893-24-4107